

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

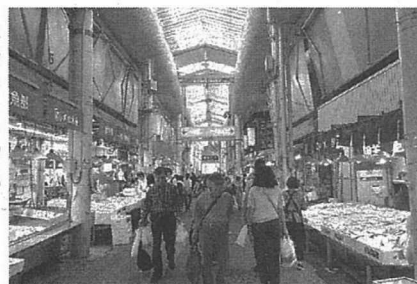
混雑するバスターミナル

金沢市は前田利家を開祖とする加賀藩の城下町として、昔ながらのたたずまいが人気を集め、北陸新幹線開業以降は、国内外から多くの観光客を集めている。中でも近江町市場のある武蔵ヶ辻地区は観光スポットとして人気が高い。

そこにある「武蔵ヶ辻」バス停（現武蔵ヶ辻・近江町市場バス停）は路線バス、高速バス、ワンコインバスなど多くの事

業者のバス停が集まるバスターミナルとして機能していたが、バスを待つ地元住民や観光客で混雑し、歩道の通行にも支障をきたしていた。そこで金沢市は「武蔵ヶ辻第四地区第一種市街地再開発事業」を計画。07年に着工、併せて道路拡幅工事を施行した。

た街がつくられた。なお、これらの再開発事業では鉄骨造り5階建ての商業、公益機能と駐車場が併設された建物が建設予定で、市場開場3000年を迎える21年までの完成を目指している。



①近江町いちば館1階の市場
②北國銀行支店の建物

市民と観光客、共存図る

まず「近江町いちば館」と道路拡幅整備

近江町市場は建物やアーケードの老朽化、防災体制の問題など多くの課題を抱えてい

た。そのため、地下1階、地上2階を専門店街、地上1階が市場、地上3〜5階は市民プラザなど公益施設を備えたビルとする建て替え改修工事が行われた。従来の「アーケードの近江町市場」の原型と雰囲気を残すため、2階部分を吹き抜けとし、採光用の開口部を設けるなどの工夫を随所に取り入れた。

武蔵ヶ辻支店（旧加能合同銀行本店）があったが、著名な村野藤吾氏の初期作品であることと市民に永年、親しまれてきた建物であるとの理由から、曳家工事により移設・保存することとなった。

歩行者通行量（めいづつエムザ黒門小路前）を比較してみると、01年度9180人、12年度が6561人と停滞していたが、16年度は1万1597人と着実に増加傾向にある（いずれも金沢市経済局商業振興課調べ）。また12年頃まで下落傾向が続いていた近接の公示地の地価も15年3月の北陸新幹線の開業効果や周辺のホテルやマンション開発の活性化により17年は上昇傾向となっている。

再開発事業から約8年が経過し、今日も近江町市場にはたくさんの方の買い物客や観光客が訪れ、活気にあふれている。新幹線開業当初は、予想を上回る観光客が訪れたため、地元の買い物客が混雑を避ける「近江町離れ」が問題になったほどだ。

近江町らしさを継承し、再生したこの街と、伝統・文化を重んじる地元の人々などが、共存共栄し、今後も人の集まる場所としてさらに発展していくことを期待したい。



③地価公示の最高価格地付近
④整備された武蔵ヶ辻バス停

現在、武蔵ヶ辻地区では引き続き再開発事業計画が進められ、近江町いちば館の東側

（日本不動産研究所金沢支所、不動産鑑定士・神田勝廉）

石川県金沢市・人気の武蔵ヶ辻地区で進む再開発